

## 平成 31 年・令和元年（2019 年）の硫黄鳥島の火山活動

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター  
沖縄気象台地震火山課

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

## 噴火警報・予報の状況、2019 年の発表履歴

2019 年中変更なし	噴火予報（活火山であることに留意）
-------------	-------------------

## 2019 年の活動概況

## ・噴気等表面現象の状況（表 1）

気象庁が実施した海上からの観測、第十一管区海上保安本部が実施した上空からの観測で、島の北側に位置する硫黄岳火口や島の中央部に位置するグスク火山火口から、従来から認められている少量の噴気が観測され、12 月の観測で硫黄岳火口北北西の海岸付近で高さ約 10m 程度の新たな噴気を確認しました。7 月及び 12 月の観測では、硫黄岳火口の西側海岸線に沿って変色水が認められました。



図 1 硫黄鳥島 火口位置、噴気位置、変色水域位置

この資料は気象庁ホームページ（[https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act/doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act/doc/monthly_vact.php)）でも閲覧することができます。

この資料は海上保安庁及び第十一管区海上保安本部のデータを利用して作成しています。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

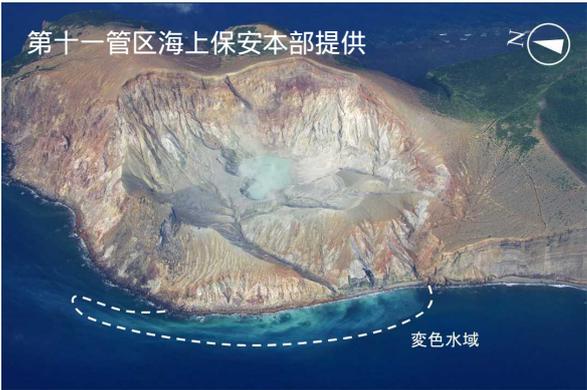
<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『電子地形図（タイル）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）

表 1 硫黄島島の状況

日付及び観測機関	噴気などの状況	
1月15日 気象庁		島の北側に位置する硫黄岳火口及び中央部に位置するグスク火山火口から、従来から認められている少量の噴気を観測しました。
		
5月17日 気象庁		島の北側に位置する硫黄岳火口で、従来から認められている少量の噴気を観測しました。中央部に位置するグスク火山火口で噴気は認められませんでした。
		

日付及び観測機関	噴気などの状況	
<p>6月24日 気象庁</p>		<p>島の北側に位置する硫黄岳火口及び中央部に位置するグスク火山火口から、従来から認められている少量の噴気を観測しました。</p>
		
<p>7月24日 海上保安庁</p>		<p>硫黄岳火口内及びグスク火山火口北側の火口内壁で白色の噴気が認められました。</p>
		

日付及び観測機関	噴気などの状況	
<p>7月24日 海上保安庁</p>		<p>硫黄岳火口の西側の海岸線に沿って黄緑色の変色水域が幅 100m、長さ約 600m で分布していました。</p>
<p>12月17日 気象庁</p>		<p>硫黄岳火口内から高さ約 300m の噴気を観測しました。グスク火山火口からは噴気は観測されませんでした。また、硫黄岳火口北北西の海岸付近で高さ約 10m 程度の新たな噴気を確認しました。硫黄岳火口の西側の海岸線に沿って黄緑色の変色水域を観測しました。</p>